

パソコンお役立ち情報



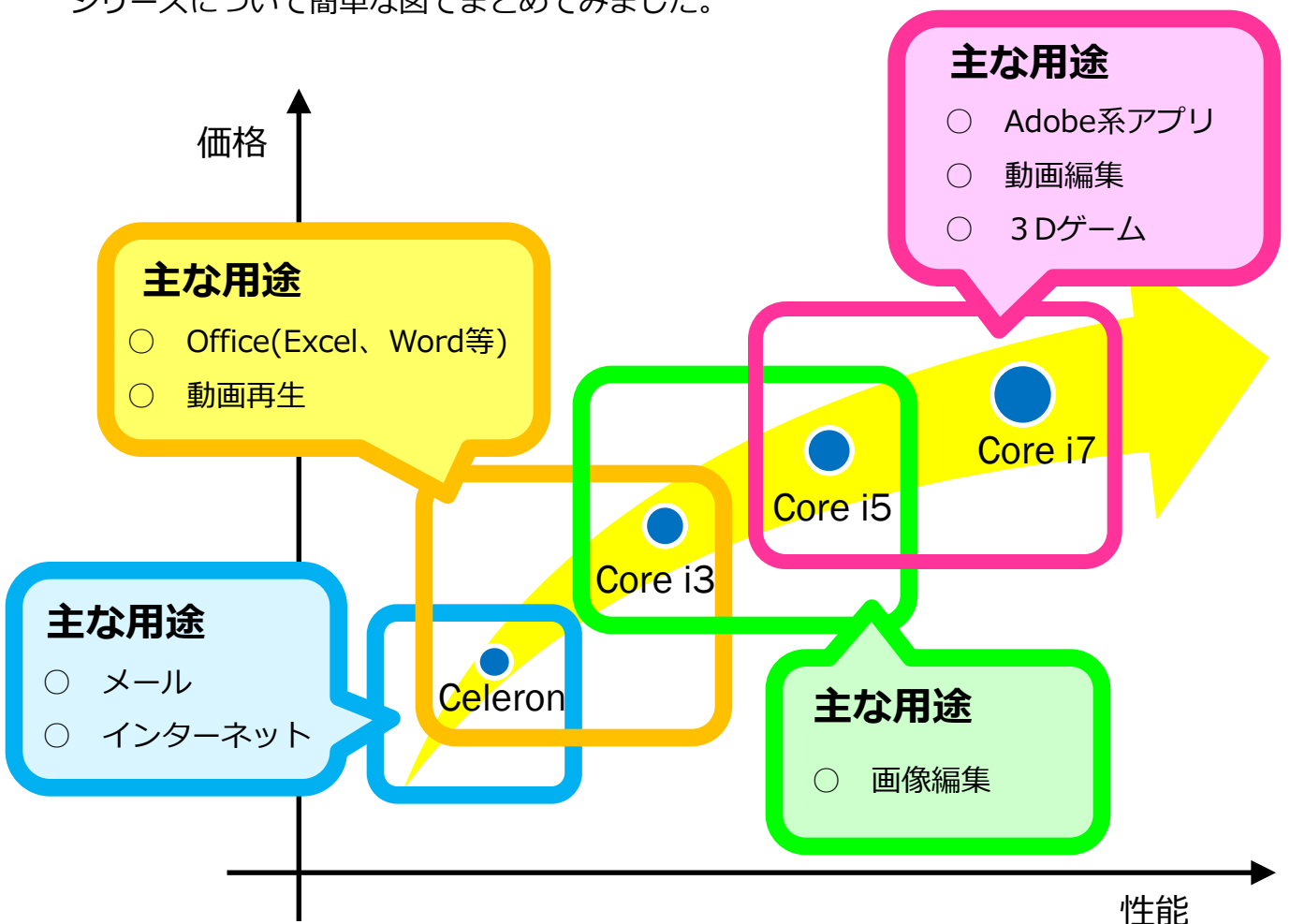
第2回 『性能』について CPU、メモリ、 HDD/SSDってなに？

パソコンを購入するとき、必要な性能で迷ったことはありませんか？
以下におすすめのパーツを図にまとめてみましたので、今後の購入時の参考にしてみてはいかがでしょうか。

CPU



CPU(Central Processing Unit:中央演算処理装置)は、パソコン全体の処理や計算を行う『**頭脳**』とも言うべきパーツです。今回は現在一般的となっている Core i (コア アイ) シリーズについて簡単な図でまとめてみました。



各CPUは動作速度や機能の有無で差別化されており、主な用途によりお選び頂けます。
快適に使用するには『**1つ上**』のCPUをおすすめ致します。

メモリ



メモリ(memory:主記憶装置)は、一時的に情報を記憶したり、CPUとデータの受け渡しを行う『**機の広さ**』に例えられる部品です。今回はMicrosoft Windowsを例に以下の表にまとめました。

OS+ Office+セキュリティ+インターネット+メール	必要	ステラ推奨
Windows XP SP3	256MB	1GB
Windows Vista SP1	512MB	2GB
Windows 7 SP1	1GB	4GB
Windows 8	1GB	4GB

Microsoftなどのホームページでは上記のように必要なメモリー量をうたっていますが、Officeや会計ソフトなどアプリケーションを使用するためには『**ステラ推奨**』を目安に搭載すると快適に使用できると思います。
また、64ビット版の場合は『**推奨の倍**』を目安に搭載する事をおすすめ致します。

HDD/SSD



HDD/SSD(Hard disk drive/Solid State Drive:補助記憶装置)は、OSやアプリケーション、データなどを格納する『**機の引き出しの大きさ**』に例えられる部品です。今回は一般的なHDDについて以下の表にまとめました。

OS/アプリ	必要空き容量	推奨
Windows 7 32bit	16GB以上	
Windows 7 64bit	20GB以上	
Windows 8 32bit	16GB以上	
Windows 8 64bit	20GB以上	
Office 2013	3GB以上	
筆まめ Ver.23	340MB以上	810MB以上
弥生会計13	250MB以上	1GB以上
Creative Suite 6	24.5GB以上	

◎上記が一般的なOSやアプリケーションで必要とされるデータ容量となります。

このほかにも各種アップデートやデータを格納する容量が必要となりますし、Windowsの安定稼働のためにも空きが必要となります。

一般的な事務用途であれば『**500GB程度**』を目安に搭載すると快適に使用できると思います。SSDはHDDと同様にデータを格納する部品となりますが、『**HDDと比べて高価ですが高速**』にデータをやりとりする事が出来るため、全体的な高速化を図ることが出来ます。